

<海外短期研修3日目(12/19)>

研修3日目は太陽の日差しも眩しく、昨日まで必須だったマフラーや手袋なしで過ごせた日となりました。今日の午前中から昨日実施したプレイスメントテストの結果をもとに振り分けられたクラスでの英語クラスがスタートです。全体では **High Intermediate** が多く、なかには **Advance** に入った生徒もおります。本日の授業をうけて、簡単すぎる、難しすぎる等があればクラス変更の交渉をしてくださいと **Academic** 担当者から話がありました。クラスで使用する教科書は北高の生徒の皆さんにとっては難しい内容ではないと思いますが、クラスは発話中心となります。1人の生徒からは「自分たちの発言によって授業の進行度が遅くもなり、早くもなるのにとっても驚いた」とコメントがありました。他国生の発信する力に圧倒されてはいるものの、自分たちの英語力を試せる機会を得て楽しんでいるようにも感じます。もちろん相手が何を話しているか分からない、だから何を話していいか分からないといった生徒も多いですが、昨年参加した先輩から英語が耳馴れするまでに2日、3日かかると聞いているようで、ここをまず乗り越える！北高の仲間同士で気合いをいれる姿もありました。

午後はハーバード大学を訪問しました。こちらでキャンパスツアーと座談会を担当してくださったのは現在大学院で物理学の研究をされている **Mr. FAN Xing** です。中国に生まれ、日本で育ち、東京の中高一貫校を卒業した後、東京大学に進学、修士課程を修了後に今年9月から渡米されています。

キャンパスツアーは有名なジョン・ハーバード像から始まり、ハーバードヤード、ワイドナー記念図書館、学部生専用の食堂、ハーバードミュージアム、**Han** さんが学ばれている理系の研究室などをそれぞれの建物ごとのエピソードを交えながら1時間程でご案内していただきました。座談会は彼が住む寮のオープンスペースで行っていただき、こちらは普段は寮生しか入ることができませんので合わせて貴重な体験となりました。「僕の **NG** はないので何でも聞きたいこと聞いていいよ」とお話しください、生徒達たちは研究内容からプライベートな内容まで1時間かけてみっちり質問をしていました。将来、学びたい分野を考えると海外と国内のどちらを拠点に置くべきか悩んでいるという質問には「どんな分野でも深めていくために、どこに拠点を置くのがベストなのかをしっかりと把握すべき。物理学の場合はアメリカがカスミスなので、サマースクール等を利用して両方を実際に見てからアメリカで学ぶことを決めた。アメリカは行動をおこす人を応援するというのが根付いている。そこも自分には合っていたのかもしれない。」とアドバイスを受けていました。また、残りの語学学校でどのように過ごすべきかの質問に対しても「目の前にあるチャンスがあればしっかりと掴んでいく。もし話したいことがあるならハーバード大学の教授の部屋をノックして話しに行くといい。やってみたかったら躊躇しないでやるという姿勢が道を開くのでは。」とお話しいただきました。最後には17歳の同期がいること、今夏に研究室の教授に直接メールを送った高校1年生の生徒と2ヵ月間一緒に研究をしたことなどを挙げて、興味があれば連絡してみてくださいとさらっとお話しいただきお別れとなりました。東大に入り、東大でも数多くの賞を受賞してハーバードで学ぶ **FAN** さんに最初は雲の上の存在だと線を引きしている印象を受けましたが、生徒の言葉をかきと「すごいことを当たり前のように言っている」姿に質問を重ねるごとに現実をもって考えていったように感じました。

研修 3 日目を終えて、徐々に時差ボケもなくなり、研修が本格的にスタートしたと実感している生徒の皆さんが多いようです。本研修はスケジュールが詰まっておりますので、「今日できなかったけど、明日やればいいや」では効かない場面がほとんどです。平等に与えられた時間、機会を誰よりも充実した時間にするべく、自分たちの行動を決めていって欲しいと願います。以上、研修 3 日目のご報告とさせていただきます。

写真は、ハーバード大学正門前での集合写真、
大学院生 F u n 様によるキャンパスツアー 1、2

